

平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (次期学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
国立大学法人 熊本大学

1. 指定校の一覧

設置者	障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立大学法人 熊本大学	知的障がい	熊本大学教育学部附属特別支援学校 (くまもとだいがくきょういくがくぶふぞくとくべ つしえんがっこう)

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究プロジェクト会議 (第二年次研究実践に係る内容の意見交換) ・ 全体研究会 (第二年次研究実践の内容共有) ・ 学部研究会 (研究対象授業等の選定) ・ 授業づくりミーティング (毎月開催) 実施のための体制整備 ・ 研究部会 (熊大式マネジメントシステム検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ S 授業研による日々の授業の指導評価 (通年) ・ 2 年次研究実践に関する職員アンケート評価及び調査 ・ 各学部における現状の課題等の分析
平成 30 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部研究会 (研究対象授業の決定及び次期学習指導要領の教育の内容等を踏まえた授業計画等の作成) ・ 授業づくりミーティング開始 (通年) ・ 研究部会 (熊大式マネジメントシステム検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ M 授業研による単元内容及び学習の評価 (通年)
平成 30 年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業研究実践 (~ 1 月) ・ 全体研究会 (講師招聘研修会: カリキュラム・マネジメントについて) ・ 全体研究会 (講師招聘研修会: 自立活動について) ・ 一般企業を対象とした資質能力に関するアンケート調査書の検討, 福祉等との協働取組経過報告, 研究実践等に関する意見交換等 (第 1 回就職支援ネットワーク会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職支援ネットワーク会議におけるアンケート内容の評価
平成 30 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究プロジェクト会議 (熊大式マネジメントシステム) ・ 学部研究会 (授業計画・評価・改善) ・ 全体研究会 (講師招聘研修会: これから求められる研究の在り方について) ・ セミナー開催 (卒業後の働く生活を描くセミナー2018) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究プロジェクトチームによる熊大式マネジメントシステムの評価 ・ 職員アンケートによる講師招聘研修会の評価 ・ セミナーアンケートにおける内容評価及び希望調査

平成 30 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究部会（各学部の研究実践経過確認） ・学部研究会（授業計画・評価・改善） ・全体研究会（実践経過集約及び情報等の共有） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究会における他学部の実践等の評価
平成 30 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討委員会（教育課程） ・学部研究会（授業計画・評価・改善） ・共同研究者と意見交換（第 1 回共同研究会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討チームによる教育課程の評価 ・授業づくりに関連するツールのアンケート評・共同研究者との共同研究会における研究経過の評価
平成 30 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討会（教育課程） ・授業研究会 ・就職支援コーディネーターによる就労支援及び情報収集 ・一般企業を対象とした資質能力に関するアンケート調査書の結果報告，福祉等との協働取組経過報告，研究実践等に関する意見交換等（第 2 回就職支援ネットワーク会議） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部による教育課程の評価 ・就労アセスメントシートによるジョブマッチング評価 ・就職支援ネットワーク会議におけるアンケート配付の手続きと結果の評価
平成 30 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会 ・学部研究会（授業計画・評価・改善） ・就職支援コーディネーターによる就労支援及び情報収集 ・研究プロジェクト会議（2 年次の研究経過報告 ・意見交換） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会における実践の評価 ・就職支援ネットワーク会議におけるアンケート回答を基にした教育課程の評価 ・就労アセスメントシートによるジョブマッチング評価
平成 30 年 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究会（2 年次の研究経過報告・共有） ・学部研究会（授業計画・評価・改善） ・就職支援コーディネーターによる就労支援及び情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会における実践の評価 ・就労アセスメントシートによるジョブマッチング評価
平成 31 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究者と意見交換（第 2 回共同研究会） ・各実践班の成果等の集約 ・学部研究会（実践のまとめ） ・全体研究会（各実践班の成果等の報告・共有） ・実践報告書等執筆 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部実践グループにおける実践報告内容等の評価 ・全体研究にかかわる実践報告内容等の評価
平成 31 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 32 回研究発表会（研究実践経過の報告及び特別支援教育に関する最新の情報提供） ・教育課程検討委員会（教育課程） ・一般企業を対象とした資質能力に関するアンケート調査書の結果に基づいた次年度の教育課程に係る意見交換，今年度のまとめ（第 3 回就職支援ネットワーク会議） ・研究プロジェクト会議（研究発表会の反省及び次年度への研究の方向性確認） 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会における参加者との意見交換やアンケート等による研究実践の評価 ・就職支援ネットワーク会議における教育課程の評価 ・教育課程検討チームによる教育課程実施の評価 ・研究部による研究経過の評価

		<ul style="list-style-type: none"> ・研究プロジェクトチームによる研究経過の評価
平成 31 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究会（次年度の研究の方向性提案・意見交換） ・教育課程検討会（教育課程） ・学部研究会（研究対象授業等の選定） ・全体研究会（10年後を見通した学校 P A T H の実施） ・全体研究会（次年度への志向） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による教育課程実施の評価及び研究経過の評価 ・10年前の学校 P A T H の確認及び現状の評価

（2）研究課題

次期学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメント
～熊大式マネジメントシステムの構築～

（3）研究の概要

次期学習指導要領を見据え、社会に開かれた教育課程の理念の下、未来を拓く資質能力を育成する教育課程の開発に向けた、授業改善を軸としたカリキュラム・マネジメントを実施していくために、3ヶ年計画で以下の3つの取組について研究を行った。

取組① カリキュラムの充実

本校のこれまでの実践をベースとして、子どもの学びを教育課程へと反映できるようなマネジメントシステムとして整理・再構築し、教育課程の P D C A サイクルを確立する。

取組② 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業開発及び改善

授業において目指す姿を明らかにし（具体的な目標設定）、主体的・対話的な学び（自ら考え、内面の働きが活性化する授業）を目指した授業づくりを行っていくことで、子どもたちの深い学びにつなげるとともに、日々の授業を評価し、日々改善を図っていく。また、評価の観点や授業づくりにおけるポイントについて明らかにすることで、研究の成果を普及していく。

取組③ 地域社会との連携・協働

教育・労働・福祉・医療等における情報収集及び意見交換、ツール等の共同開発など協働した取組を行い、教育課程や授業等の改善に生かす。また、授業や研修会等において、地域の人的・物的資源を活用するとともに本校の知見を地域社会に発信する。

なお、第3年次には、①、②、③の取組を相互に関連付けながら卒業後を見据えた学びをつなぐ教育課程を編成し、実践を行い、本研究の有効性を検証する。

（4）研究の成果

取組① カリキュラムの充実

熊大式マネジメントシステム構築のために、これまで本校が大切にしてきた子どもを中心に据えたカリキュラム・マネジメントが実施できるように、教育課程の実施・評価・改善のためのサイクルを3つの段階に分けた。一つ目が年間の教育課程の P D C A サイクルである L 段階（Long span）、二つ目が単元のまとまりの P D C A サイクルである M 段階（Middle span）、三つ目が一つの授業の P D C A サイクルである S 段階（Short span）である。今年度は、M 段階と S 段階で単元や授業構成、評価する際に活用できるシートを開発した。M シートには学習指導要領の内容や単元目標、主な学習計画、個別目標等を記載し、単元終了後には学習内容、時数、時期、個別評価を行う。S シートには、本時のねらい（問い）を定めて、学習の流れや教師の発問を記載していく。また、シートの余白には各教科等の見方・考え方や、共同研究者からの授業づくりのポイントを添付しておき、授業構想を効果的に行えるようにし

た。授業後は放課後のS授業研（15分間の授業研究会）にて、指導の評価や子どもの学びの様子などを授業者同士で話し合い、評価を積み重ねていった。S授業研での評価及び、単元終了後のMシートでの評価において、子どもの学びの変容を捉え、個別の指導計画の評価と通知表につなげることができたとともに、単元評価に基づいて、教育課程の改善につなげることができた。

また、教育課程検討委員会をこれまで前期と後期の終了後に実施していたが、夏季休業期間及び冬季休業期間を利用して、8月、12月、そして3月に実施することとし、次年度への体制整備を行った。

取組② 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善及び開発

小・中・高の各学部で研究対象授業を選定し、熊本大学教育学部の教員と共同研究を行った。昨年度は対象教科に沿った教科教員との共同研究に取り組んだが、今年度は子どもの実態や学びを多面的に捉えることができるように、教育心理学、教育評価、特別支援教育などの教員とも共同し日々の授業研究に取り組んだ。

小学部では、国語科を中心に取り組み、子どもの学習内容と特性に応じた授業づくりをテーマに、国語科の「聞くこと」「話すこと」「書くこと」「読むこと」の学習内容に沿って学習グループを編成した。そして、M・SシートによるPDCAサイクルを起点として、学んだことが学校・家庭・地域生活への般化できるよう題材や教材を工夫して取り組んだ。

中学部では、知的障がい教育における数学の授業づくりをテーマに、新学習指導要領の各教科等編「算数」「数学」の目標をアセスメント項目として捉え、一人一人の生徒がどの項目まで学習できているかを確認するとともに、生徒の教育的ニーズなども含めて学年縦割りで学習グループを編成した。授業においては、共同研究者から助言をいただき、「リフレクション」と「問題発見と解決の過程及び般化」という点を、各グループの共通の授業づくりのポイントとして取り組んだ。

高等部では、本校卒業生の卒業後の課題が外出や家事等であったことから、卒業後の働く生活を見据えて、家庭科に焦点をあてて、L段階において3年間で身に付けさせたい資質・能力や授業内容を整理し、M・S段階において、授業の構成と流れ、主体的活動の工夫、家庭との連携を、高等部の授業づくりの共通視点として各学年で実践を積み重ねてきた。

全学部の取組において、知的障がい教育で重視してきた子どもたちの学ぶ意欲や主体性を大切にしながら、障がいの状態等に留意し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、学びの過程の質的改善を行うことができた。

取組③ 地域社会との連携・協働

今年度は、福祉・労働等関係者からなる「附特就職支援ネットワーク会議」において、一般企業から回答を得た「在学中に身に付けてほしい力」アンケートや、これまで取り組んできているフォローアップミーティングの結果等から、教育課程の改善や教育活動の見直し等につなげるために意見交換及び情報交換等を行った。「在学中に身に付けてほしい力」アンケートは、本校で平成28年度作成した「附特就労アセスメントシート」を基に作成し、本校卒業生が就職した一般企業を含め、就職支援コーディネーターが職場開拓で訪問した一般企業を対象に調査を行った。全部で100社からの回答を得た。結果から、企業ではワークスキル面よりも、働く意欲やライフスキルなどのソフトスキル面を身に付けてほしいことが分かった。また、フォローアップミーティングでは本校卒業後、3年、6年、10年目を対象に、本人や就職先の担当者などを含め、現状を共通理解し、今後の支援の在り方などを確認したりしている。その中での聞き取りから経年別と就労形態別でレーダーチャートとしてまとめた。そこから、家事や身辺処理などの生活面と、外出や地域行事への参加などの余暇活動面が課題であることが分かった。在学中における生活スキルや余暇活動の充実、地域の支援機関と連携した生涯学習の場を作っていくことが重要であると考えられた。

授業においては、本校周辺にある大学や近隣施設など、学習に有効な地域資源（人的、物的、環境）を活用して、学校内にとどまらず、多様な教育活動の場を用意することができた。

(5) 課題と今後の方策

取組①に関しては、日々の授業評価が活性化してきたことで、単元評価も活性化し、教育課程のチェック機能が動き出してきていることから、より効果的・効率的な評価システムの確立と、担当者のみではなく、全職員が教科間の関連や配列から教育課程を編成していくツールであるLシートを開発し、日々の授業実践（S段階）から再び教育課程へ戻る（L段階）というシステムの実践検証を行う。

取組②に関しては、取組①で開発したLMSシートを活用した効果的で効率的な授業づくりを展開し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、引き続き熊本大学の教員と共同に取り組み、授業づくりのポイントを見出した実践集を地域の学校へ配布していく。

取組③に関しては、各アンケートを多面的に分析し、教育課程の質の向上につなげるとともに、地域社会への啓発も含め、協働した授業づくり、連携した取組のさらなる強化を図っていきたい。

そして、取組相互を有機的に関連させ、構築した熊大式マネジメントシステムにおいて実践検証を行い、課題を見出していく。翌年からの次期学習指導要領の実施に向けて内容や体制等の改善を図り、卒業後を見据えた子供の学びをつなぐ教育課程を編成していく。